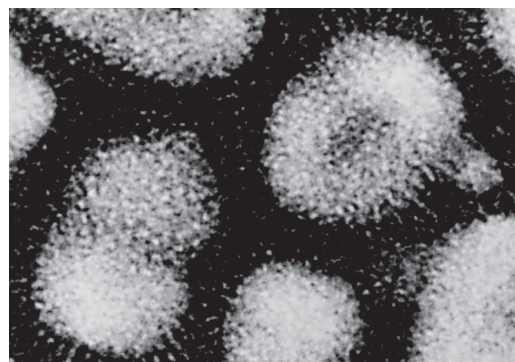
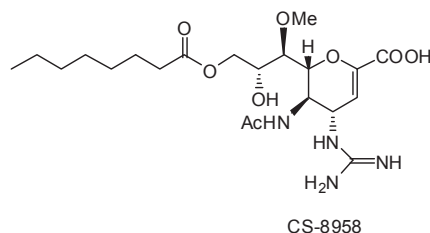
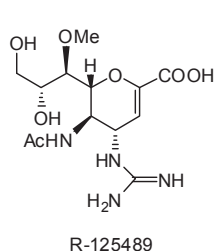


作用持続型インフルエンザシアリダーゼ阻害剤の創製 — CS-8958 の探索から開発まで —

ここ数年、高病原性H5N1型鳥インフルエンザウイルスのヒトへの感染例とその死亡例が増加する一方で、更にはこの春、豚に起因する新型H1N1型インフルエンザウイルスが出現した。その感染拡大はすさまじいものであり、現在でもなお続いている。また、昨年のH1N1型インフルエンザウイルスのほぼ100%がタミフル耐性化していた。

この状況下において、第一三共は、現在、吸入型のシアリダーゼ阻害剤であるCS-8958（R-125489の9位アルコールのオクタノイルエステル体）をインフルエンザ治療薬として開発している。CS-8958は長期持続性の特徴を活かし、単回吸入での治療完了、週1回の予防投与が可能となることを期待している。さらに既存薬に対する耐性ウイルスや新型インフルエンザウイルスなどにも効果を示す。今年CS-8958は、単回吸入による成人対象第3相臨床試験（国際共同試験として、日本、台湾、韓国、香港で実施）ならびに、9歳以下の小児対象の第2/3相臨床試験を終了し、それぞれ良好な結果を収めることができた。今回CS-8958の合成探索から開発までの経緯を紹介する。



2009年 **12月16日** (水) 16:30~18:00

慶應義塾大学日吉キャンパス 第4校舎1階 J11番教室

参加費：無料（事前申し込み不要）

講師：本田 雄

- ◇第一三共(株) 化学第一研究所 第五グループ長
- ◇東京大学薬学部修士課程修了後、帝京大学薬学部薬品製造化学教室助手に就任。その後、薬学博士取得、タイトル「含りん脱離基を基盤とする高選択的グリコシル化反応の開発」。平成3年10月から、米国スクリップス医学研究所に留学。D.L.Boger研でポストドクター。プレオマイシンの全合成研究に従事。平成6年4月三共(株)に入社し、化学研究所に配属。平成19年4月より現職。
- ◇専門は創薬化学（糖尿病領域）



REC for NS

research and education center for natural sciences

